❖団体名	**特定非営利活動法人　難民を助ける会（AAR Japan）**
❖ASC2021実施日	2022年12月12日

❖セルフチェック結果

指針項目	項目数	実現している項目数	実現していない項目数
組織運営基準	18	18	0
事業実施基準	11	11	0
会計基準	11	11	0
情報公開基準	4	4	0
合　計	**44**	**44**	**0**

❖アカウンタビリティへの考え方

AAR Japanは自分たちの活動について透明性を確保し、情報開示に努めることを行動規範のひとつとして掲げています。また、国内外からご寄付や公的資金を預かる団体として使途や財政状況などの情報開示はもとより、受益者やカウンターパートへの説明や活動結果の検証を通じてよりよい支援活動をすることが大切な責務であると考えています。

今回のチェックではいずれの項目もチェックポイントの基準には達していましたが、環境配慮、国内における資金物品の調達基準、多様な性への配慮の3点については改善の余地があると考え、今後検討をすすめてまいります。

❖アカウンタビリティ向上の取組み紹介

1. 自己財源の安定化
2. 海外事務所における会計能力の向上
3. 規則や行動規範の整備

❖上記取組みの実施状況

1. 自己財源の安定化

助成金や公的資金以外の自己財源を確保することは安定した組織運営や時宜を得た支援活動に欠かせません。2021年度にようやく自己資金比率が30%を超えましたが、この水準の維持、向上にむけて企業や団体との連携や幅広い層への情報発信を強化しています。

2. 海外拠点における会計能力の向上

これまではエクセルで会計処理を行っていたため、関数計算や数字の写し間違えにより収支確認に多大な時間を費やしていました。2022年度に11海外拠点で会計ソフトを導入し、現在運用中です。ソフトの活用が進むことで会計処理の精度向上やスピードアップを見込んで

います。

3. 規則や行動規範の整備

2021年に性的搾取・虐待・ハラスメントからの保護方針を策定し、現在、事案が発生した場合の具体的な対応方法を検討しています。また、国内外の各事務所における苦情およびフィードバックの対応窓口設置を進めています。2022年以降研修を実施し、各事務所の状況に即したメカニズムの構築に向けて協議を進めています。